



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第424号

萩への巡礼を前にして 予備知識①

フランススコ・アシジ 谷口尚志

9月23日(土)にわたしたちは山口県の萩市へ巡礼旅行に向かいます。先日、そのための下見をしてきたのですが、萩と聞けば、まず思い浮かべるのは江戸時代から明治時代へと日本が大きく転換した時期に多大な影響を与えた人物たちのことでしょう。吉田松陰、木戸孝允(桂小五郎)、高杉晋作、伊藤博文などの名が挙がるはずで、彼らの生涯やその功績については様々な意見があるのも事実ですが、日本を近代国家として成長させようと駆け抜けた人物たちであることは確かで、国を動かす原動力ともなった彼らが生まれ育った場所としての誇りとその精神が今も息づいていることを強く感じました。しかし、今回、わたしたちは異なる視点をもってこの町で起きたこと、この町とその周辺の町々で苦難のなかでの信仰生活を送っていた信徒たちのことを思い起こす時間を過ごします。特に2008年に長崎で列福された「ペトロ岐部と187殉教者」の一人に数えられているメルキオル熊谷元直や潜伏キリシタンのこと、明治政府による弾圧によってこの地に流刑された浦上の信徒たちのことを思い起こします(津和野も彼らが流刑された地域の一つ)。

今回と次回の二回に分け、巡礼に向かう前に押さえておきたい予備知識を紹介することにいたします。“百聞は一見にしかず”なので、実際はその目で見て確かめていただくのが一番なのですが、多少なりとも事前に知っていると実際に見た際に鮮明に感じることができ、何よりもご自分の信仰と向き合うための良い機会にもなると思います。

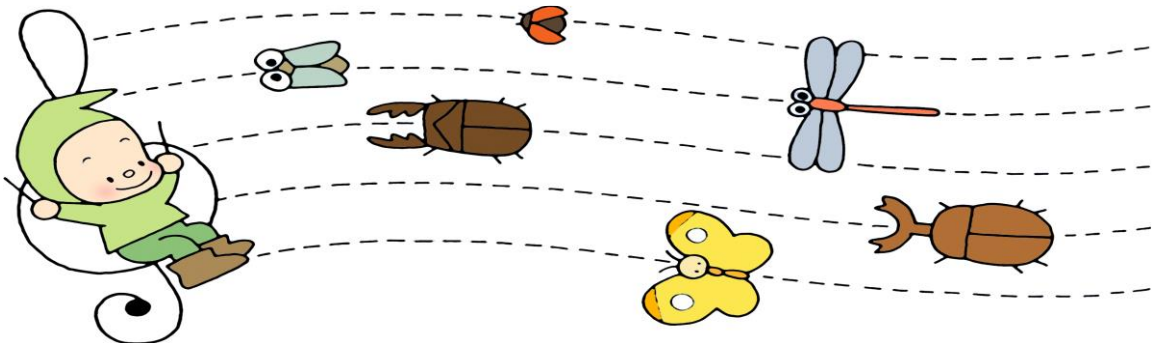
① メルキオル熊谷元直と潜伏キリシタンについて

もともと中国地方はザビエルの来訪によって直にキリスト教が伝えられた地域であり、多くの信徒がいたと考えられています。関ヶ原の戦いに敗れた毛利元就の治世下に弾圧が始まることになり、(巡礼では訪れることはできないが、“紫福”と呼ばれる地域には多くのキリシタンが潜伏して

旅の話(17)・・・・・・・・・・	3面
ベトナム青年会の活動を紹介・・・・・・・・	4面
幼稚園から・・・・・・・・・・	5面
委員会等報告・・・・・・・・・・	6・7面
がんば3「総務委員」・・・・・・・・・・	7面
お知らせ・教会学校・今月の聖人・・	8面

いた痕跡、すなわち、地蔵に見せた聖母子像、三位一体を表現した一つの体に三つの頭がある地蔵、祠型で統一された墓などが数多く残っており、地名も“至福”からきたという説がある。また今回、訪れることができる萩市内の報恩寺にはキリシタンが隠れて礼拝していた場所と伝わる地下空間がある)。さて、熊谷家は毛利家とは親戚関係にあって元直は元就とも近い仲であったが、キリシタン武士たちのリーダー的存在となっていたため、元就はまず元直に棄教するように働きかけたが聞き入れず、その不屈の精神に元就も一度は棄教をあきらめかけたと報告されています(イエズス会年報より)。彼は福岡藩の藩祖であるシメオン黒田官兵衛の影響もあって受洗したと言われており、それだけ身分が高く、周囲にかなりの影響力もあったことが伺えるので、彼の存在は地域の人々にとって大きな支えとなっていたはず。ところが、1604年、萩城の築城の際に使用する石垣の隙間に水はけを良くするための小石2000余りが盗難に遭い、いわば現場監督としての役割を担っていた元直に対し、元就の怒りの矛先が向けられることになりました(この事件を「五郎太石事件」という)。この事件が引き金となり、もともとキリスト教を認めたくない元就は元直とその家族、小石を盗んだ者とその家族を処刑することにしました。毛利家文書に13条からなる元直の罪状書きが残されており、8条目に「宗教のことは不要であると散々言い聞かせたが従わず、それどころか、増長して親族を異宗に引き入れた」とあるそうです。彼は1605年8月15日の聖母の被昇天の祭日、信徒がゆえに切腹を拒み、元就の面前で首をはねられて処刑されました。イエズス会年報には元直が生前、友人に宛てた手紙の内容が記録されているので最後にその内容を紹介します。

「キリストの教えは、唯一の真の神にして全世界の創造主なる御者を拝むことを命じ、同様に主君と両親を畏れ敬い、これに従うこと、さらには隣人をおのれと同様に愛すること、その他十戒に示されていることを命ずるからである…(中略)…我らは最早、たとえ身は打ち砕かれようとも、偉大なる神に背くことはできないであろう。それ故に主君が、私の教えを直ちに捨て去れと命じ給うなら、私の生命を召すより他はないであろう。ことに死が、キリストへの信仰告白のために特別の幸福をもたらしてくれるからには、私は自分の命を喜んで失うつもりである。」



旅の話 (17)

岩本光弘

前回から小教区報にふさわしくない山の話を書かせていただいています。

南アジアの山ではチベット仏教に出会いました。ネパールの人口の80%はネワール族でヒンズー教なのですが、ヒマラヤの麓には色々な部族がいます。私たちも知っている名前ではエベレスト山脈の地域に住んでいて登山ガイドで有名なシェルパ族やアンナプルナ山脈の地域に住んでいるグルン族など沢山います。グルン族は昔からイギリス軍に傭兵として雇われていて、日本ではグルカ兵として知られていました。香港が中国に返還された時に最後まで残っていたイギリス軍の主力はグルカ兵でした。

ヒマラヤの麓に住んでいる人たちはほとんどがチベット仏教です。この人たちの部族は数百年前にチベット地方からヒマラヤを超えて南のネパールに来たと言われています。南下する時に自分たちの宗教のチベット仏教を持ってきました。今もヒマラヤの低いところを超えてチベットとの交易もしています。そのために各地にたくさんの仏塔があります。谷の橋とか峠やピークにはたくさんの旗が掛かっているのをテレビなどで見たこともあると思います。これは五色の旗に経文を刷り込んであるタルチョという旗です。五つの色は水や火や地などを表したもので、日本のお寺でもこの五色を一枚にした旗があります。

山道の道幅が広いところには道の真ん中に石に経文を彫ってあるマニ石が置いてあり、見通しが良い高台には白い仏塔があります。最初にこの地域を歩いた時にガイドから何度も注意されたのはマニ石や仏塔や旗竿に掲げてあるタルチョに出会うと必ずその左側を通ることでした。チベット仏教のお寺に入ったら境内を回るときは時計回りに通ることが決まっています。一番すごいと思ったのは、大きな山の上に聖地があるのでその周りを巡礼している人たちで、一周に何時間もかかるのを辛抱強く歩いていますが、巡礼では必ず9周します。マニ車を回しながら黙々と歩いている姿はすごいとしか言いようがありません。

中国四川省に登りに行ったときのことで。山の道案内に地元の牧場の青年が来ました。彼に金がたまったらどうするのかと聞いてもらったところ、バスで成都に遊びに行くと言いました。それ以上に金が貯まったらと聞くと巡礼に行くというのです。どこまでかと聞くと三か月かけて巡礼に行くといいましたのでチベットへの巡礼と分かりました。若い青年でも巡礼に行くことを考えているのです。

巡礼の極めつけはチベットの西側にあるカイラス山への巡礼です。この山の周囲を五体投地で回るのが、この山の麓まで何か月も五体投地で来てそこから一か月かけて回ります。途中の高い峠は5000mを超えますので夜は冷えます。そこを野宿しながら回ります。カイラス山は誰も登ったことがない聖なる山で、周囲を歩いて一周すると10日かかります。

チベットへの道では家族で五体投地をしてラサを目指している人々を何度も見ましたがバスに乗っている私たちに手を振ってくれました。

カトリック水巻教会のベトナム青年会の活動を紹介



Picnic biển ashिया Lần II

Thời gian 2/7/2023 sau giờ Lễ Chúa Nhật

Địa điểm Biển Ashiya seaside park

Hoạt động



水巻カトリック教会ベトナム青年会は7月2日、芦屋の海浜公園にピクニックに行きました。

6月半ばから断続的に降り続く雨。線状降雨帯が停滞して豪雨が続いていましたが、その日奇跡的に雨が上がり、雨雲は消え、青空が広がった午後になりました。私たちの熱い思いと祈りが天に届き、神様に愛されたことを感謝する一日でした。私たちは仕事のストレスを忘れて、日本の美しい砂浜で走ったり飛んだり、ビーチバレーをしたりと大いに楽しむことができました。

豪雨による被災地の人々に心を寄せ、一日も早い復旧と皆様の平安を祈っています。





水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 8月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

〈水巻聖母幼稚園〉

先日夏祭りが行われました。前日から「あと〇回寝たら夏祭り」と楽しみにしていた子ども達。お天気にも恵まれ、今年は園庭でゲームをしました。ホールでは心に響く和太鼓の演奏を聞き、子ども達は真剣な眼差しでした。その後は、実際に太鼓を体験することができ、貴重な経験となりました。



10日の大雨で避難をしている方や、不安な日々を過ごしている方がおられます。一日も早く回復し、安心して過ごせますように、元の生活に戻れますように、お祈りしたいと思います。

水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559
e-mail : ContactUs@mizumakiseibo.ed.jp

〈マリア子どもの家〉

作り上げてきた『日常生活の練習』が、定着してきました。日常生活の練習には、〈手を洗う〉〈小布を絞る〉〈皿を洗う〉〈洗濯〉〈掃く〉〈拭く〉〈畳む〉〈花を生ける〉〈植物に水をやる〉〈木を磨く〉〈靴を磨く〉〈配膳の準備〉などがあります。

その中でも、〈配膳の準備〉は、毎日やってもらう練習です。初めは、月齢の高い2歳児さんが盛んにやっていましたが、しだいに低年齢化し、今では1歳児さんが当たり前のようにやっています。初めに、ランチョンマットを敷きます。次に、カゴに茶碗やお皿・コップを1個ずつ入れて運び、ランチョンマットの丸の形の上に置いていきます。1



テーブルのセット(5~6人分)が済んだら、次のテーブルをします。これを、1~2人でやります。近くに、〈花を生ける〉の机があり、毎日誰かが花を活けてくれます。



TEL : 050 5212 7759
HP : 水巻町マリア子どもの家
水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家
園長 水口 由美
教職員 一同

委員会等報告

2023年7月分

7月度小教区委員会 7月9日

1. 行事予定

- ・8月 5日(土) 教会学校 Day キャンプ
(新田原教会)
- ・8月 6日(日) 小教区委員会
- ・8月 11日(金) 教区主催・平和の集い
(大名町教会)
- ・8月 15日(火) 聖母の被昇天
9時半～ミサ
- ・8月 20日(日) 18時～ベトナム語ミサ
- ・8月 27日(火) こころの会

2. 議題

(1) 各専門委員会および代表委員(営繕、納骨堂、冠婚葬祭)、北九州地区宣教司牧評議委員より

① 典礼委員会

- ・通夜および葬儀、結婚式のしおりを新しく作成していただいたので、今後はこれを用いて典礼を行う。
- ・冠婚葬祭、特に通夜と葬儀の典礼における司会者やオルガン奏者の確保が難しい状況。現状に合う対応について小教区委員会からのアイデアをいただきたい。

② 総務委員会

- ・9月17日(日)に敬老の祝いを行うが、あらためてその対象となる方々の名簿を地区別で集計して総務への提出をお願いしたい(各地区委員)。期日は7月23日(日)。

③ 営繕の部

- ・女性用トイレの奥の便器を便座付きのもの

のに交換した。

- ・教会施設全体における蛍光灯からLED照明への交換作業を今後も続けていく。

④ 納骨堂管理の部

- ・7月30日(日)のミサ後より、納骨堂使用者の総会を開く。あらためて現行の規約に基づく取り決めや、今後、想定される課題等を共有することにする。

⑤ 冠婚葬祭の部

- ・7月16日(日)14時からの結婚式の準備はふれあい会、お花を生ける会、典礼委員会などの協力のもとで進められている。

⑥ 北九州地区宣教司牧評議会

- ・地区評議会の主催 2023年度第1回目の聖書講座が行われる。『宣教司牧方針』に則って企画されているので、誘い合わせのうえ、参加していただきたい。

(2) 聖堂正面入口の聖水容器の使用について(使用を求める声を受けて)

- ・衛生的にいかがなものか(依然、消毒液を使用している現状と矛盾する)。加えて、聖水容器の適切な清掃を行う必要もあるので、使用することになった際には別の容器を準備し、その都度、清掃をするようにする。

- ・状況を鑑みたうえで現時点での聖水の使用は見送るとの報告に加え、“聖水”そのものの意味についての説明も必要と考え、7月16日(日)に主任司祭からの説明を行うようにする。

(3) 小グループに「召命を祈る会」を加えることについて

・現在、北九州地区において毎月の召命祈願ミサを20年続けている「召命を祈る会」がある(司祭や修道者の召命を願うために祈る集まり)。今後、この集まりを地区全体に広げ、幅広い意味での召命活動をつなげる目的で、北九州地区宣教司牧評議会および地区司祭にも呼びかけて各小教区にも呼応するグループを設置することになった(“召命”とは神の呼びかけに応える信徒としての生き方に他ならないため、信徒全体が意識しなければならない)。このため、当教会でも「召

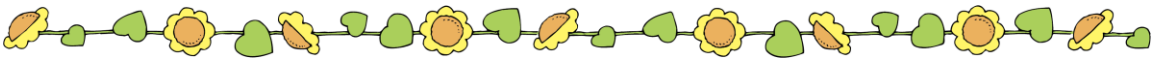
命を祈る会」を小グループとして立ち上げることにしたい。

(4) その他

・資産運用のための預け金について。預ける前、事前に教区本部へ申し出をしなければならないため、あらためて改築献金の積立て分のうちの200万円を預けることについての承認をお願いしたい。

・9月23日(土)に行われる萩への巡礼申し込みを地区ごとにあらためて呼びかけて欲しい(7月9日現在、申込み総数25名)。

※7月23日(日)に締め切る。



第2回目のがんばる3は、総務委員会です。

「総務委員」

総務委員の役割

①小教区委員会事務局<役員会>は毎月開かれている小教区委員会の議題等について話し合います。

②ア) 代表委員および イ) 小グループからの意見・要望を聴き、役員会に提案します。

ア) 代表委員

・納骨堂管理の部 ・冠婚葬祭の部 ・営繕の部

イ) 小グループ

・教会学校リーダー会 ・侍者会 ・聖歌隊 ・お花を生ける会

・クリストフォール ・図書 ・ふれあい会 ・レプトン会 ・抱樸支援会

・聖書の分かち合い ・こころの会 ・ラシーヌの会

③小教区委員会では水巻教会の空気を新しくし、一人でも多くの人が『わたしの居場所はココ』と思えるようになるために意見を出し合い、皆の賛同のもとで決めて、実行しています。

*常に《耳をダンボ》にして、声なき声が聞こえますように・・・と頑張っていきたいです、皆さんお一人おひとりが、総務委員の耳になってください。



8月のあしらせ

★特別献金★

6月25日 聖ペトロ使徒座への献金
23,300円

ご協力、ありがとうございました。

★教会学校 Day キャンプ★

日 時：8月5日(土) 9時30分～
場 所：新田原教会

★聖母の被昇天ミサ★

日 時：8月15日(火) 9時30分～



教会学校のページ



8月5日(土)、新田原教会にキャンプに行きます。日帰りですが、ちょっとした黙想会、バーベキュー、ゲームなどを行い、親交を深めてきます。Day キャンプの報告は来月号にて…



今月の聖人

22日 天の元后聖マリア

この記念日は1954年、教皇ピオ12世が発表した回勅“Ad Caeli Reginam”(アド・チェリ・レジナム)によって定められました。この回勅のなかで、教皇は「マリアは神の母であり、新しいエバとしてイエスのあがないの業に参与した。また、卓越した完徳と、力強い取り次ぎによって、天の元后と呼ばれるにふさわしい方である」と述べています。以前は5月31日だったが、典礼暦の改訂後、聖母被昇天の8日目にあたる8月22日に祝われるようになりました。

聖書の中には、キリストが王として描かれている箇所がいくつかあります。(マタイ27.11、黙示録19.16など) マリアは大天使ガブリエルから、生まれる子が「いと高き方の子」であり、ダビデの王座が与えられることを告げられました。そのときから、マリアはイエス・キリストの母となり、生涯にわたって特別にキリストの救いの業に協力しました。

4世紀の教父、聖エフレム(306年ごろ-373年)は多くの賛歌を残し、マリアを「元后、女王」と呼んで、たたえています。その後、この称号は教父や教会博士たちによって好んで用いられ、人びとに親しまれるようになりました。

教会憲章は、「原罪のいかなる汚れにも染まらずに守られていた汚れないおとめは、地上生活の道程を終えて、肉体と靈魂ともども天の栄光に引き上げられ、そして主からすべてのものの女王として高められました。それは、主たる者の主であり(黙示録19.16)、罪と死の征服者である自分の子に、マリアがよく似たものとなるためであった」(59)と述べています。天にあげられたマリアは、王であるキリストの栄光にあずかり、女王としてたたえられ、すべての人のために恵みを取り次いでくださっています。